

# 第3回 日本医学会連合 Rising Star リトリート

## 実施報告書

2024年7月

### 目次

1. 概要
2. 実施体制
3. 開催までの準備状況
4. 参加者によるレポート
5. アンケートとその結果
6. 総括
7. 会場風景（写真集）
8. 参考資料
9. リトリートプログラム（抜粋）
10. リトリート優秀賞 賞状

## 1. 概要

- ・ イベント名：第3回 日本医学会連合 Rising Star リトリート
- ・ テーマ：Deciphering Biomedical Systems -生物医学研究最先端-
- ・ 会期：2024年6月19日（水）～21日（金）
- ・ 会場：函館大沼プリンスホテル、北海道大沼国際セミナーハウス
- ・ 参加者：58名（日本医学会連合基礎部会所属研究者47名（うち、若手企画委員5名）、臨床部会所属研究者3名、特別講演講師1名 シニア企画委員5名、日本医学会連合教育・推進委員会2名）
- ・ 学術プログラム：特別講演1件、口頭発表25件、ポスター発表25件

## 2. 実施体制

- ・ シニア企画委員5名  
高岡晃教（日本免疫学会、企画委員長）、青木淳賢（日本生化学会）、赤羽悟美（日本生理学会）、森石恆司（日本ウイルス学会）、榎本篤（日本病理学会）
- ・ 若手企画委員5名  
西城忍（日本免疫学会）、名黒功（日本生化学会）、須田悠紀（日本生理学会）、田鍬修平（日本ウイルス学会）、里見介史（日本病理学会）

## 3. 開催までの準備状況

- 3-1. 2019年3月に開催された第1回日本医学会連合 Rising Star リトリート及び2023年3月に開催された第2回日本医学会連合 Rising Star リトリートの成功を受けて、2024年度も同様に合宿形式のリトリートを開催することを第3回日本医学会連合リトリート企画委員会で確認した。第3回のリトリートでも、各学会が自主的に推薦する若手研究者による研究発表会・交流会を実施するというを基本的な方針として踏襲することとした。
- 3-2. 第3回のリトリートを開催するため、第2回の2つの幹事学会（日本免疫学会、日本生化学会）に加えて新たに3学会（日本生理学会、日本ウイルス学会、日本病理学会）を追加して、基礎部会5学会を幹事学会として、開催の準備に入った。
- 3-3. 日本医学会連合に事業計画を提案し、北海道開催に係る移動時間や滞在時間、さらにこれまでは3月開催でありましたが、北海道での開催の場合、時期的（気候的に）かつそれを見込んだ交通への影響などを考慮し、3月開催より6月（初夏）開催の方がよいと考えた。また会場は、予算の関係上、2日目の会場はホテル以外の北海道大沼国際セミナーハウスで開催した。第1回・第2回と同規模の参加者で6月に2泊3日での開催を予定し、それに対して2年分の予算が確保された。
- 3-4. 以下のように企画を計画した。

- ・ イベント名：第3回 日本医学会連合 Rising Star リトリート
  - ・ テーマ：Deciphering Biomedical Systems -生物医学研究最先端-
  - ・ 会期：2024年6月19日（水）～21日（金）
  - ・ 会場：函館大沼プリンスホテル、北海道大沼国際セミナーハウス
  - ・ 参加学会（全16学会）
    - a) 当番学会（5学会）：日本生化学会、日本免疫学会、日本生理学会、日本ウイルス学会、日本病理学会
    - b) 上記に加え、残り10学会を含めた全日本医学会連合基礎部会関連学会を対象とする。
    - c) オブザーバー学会（1学会）：日本感染症学会
  - ・ 企画委員（全10名）：
    - d) シニア企画委員 5名：高岡晃教（日本免疫学会、企画委員長）、青木淳賢（日本生化学会）、赤羽悟美（日本生理学会）、森石恆司（日本ウイルス学会）、榎本篤（日本病理学会）
    - e) 若手企画委員 5名：名黒功（日本生化学会）、西城忍（日本免疫学会）、須田悠紀（日本生理学会）、田鍬修平（日本ウイルス学会）、里見介史（日本病理学会）
  - ・ 参加者は日本医学会連合基礎部会関連学会所属の若手研究者約50名（教授から大学院生まで、身分・役職は問わず、年齢は概ね45歳まで）。その分野の新進気鋭の研究者であることを条件とした。クローズドの会とする。
  - ・ 発表はオーラル、ポスター発表。参加者全員に発表の機会を与える。特別講演一席。
  - ・ 特別講演は企画委員長の推薦により竹田潔先生（大阪大学）に依頼する。
  - ・ 参加者が交流できる場と時間を設定する。
- 3-5. 2023年12月19日に、日本医学会連合門協会長、高橋副会長、日本医学会連合教育・研究推進委員会本間委員長より、基礎部会加盟各学会の代表理事・理事長・会長に対して、15の基礎部会加盟各学会への若手の推薦（幹事学会から5名、それ以外から2名）依頼が行われた（参考資料8-1）。さらに、リトリートのテーマとの親和性の高い臨床系学会からのオブザーバー参加として日本感染症学会へも推薦依頼を行った。推薦締切は1月31日とした（実際は2月2日まで最後の学会から推薦を受け付けた）。
- 3-6. 2024年2月5日に企画委員会をオンラインで開催した。優秀賞、予算、今後の準備などに関して決定した。
- ・ 前回同様に優秀発表者に対する顕彰を行うこととし、講演とポスター発表それぞれについて3名を参加者の投票により選出して、「日本医学会連合 Rising Star リトリート優秀賞」の賞状と記念の盾を授与することとした。
  - ・ 抄録登録は医学会連合事務局、プログラム作成などは企画委員長の高岡先生が実施した。抄録の提出締め切りは3月20日とした。

- 3-7. 2024年4月22日に第3回 日本医学会連合 Rising Star リトリート企画委員会をオンラインで開催した。ポスター発表、優秀賞の選出方法、今後の準備などに関して決定した。
- 3-8. 2024年6月4日に第3回 日本医学会連合 Rising Star リトリート企画会議をオンラインで開催した。全ての未確認事項を決定した。
- 3-9. 抄録集（参考資料9）を6月11日に参加者に対して通知した。

## 4. 参加者によるレポート

### 第3回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本骨代謝学会推薦

東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター

北條 宏徳

私は、日本骨代謝学会から推薦をいただき、第3回日本医学会連合リトリートに参加させていただきました。ほとんどの参加者は専門外の先生ということもあって、一抹の不安を抱いての参加でしたが、当初の不安を吹き飛ばすような素晴らしい会でした。特に印象に残った点を以下に述べさせていただきます。

第一に、様々な学会から参加された素晴らしい先生方と、ディスカッションする時間を持てたことです。自分の研究に対して、専門外の先生方にとって面白いと感じる部分、興味を持っていただける部分がどこか明確になりました。自らの研究を客観的に見る、とても良い機会になりました。また、異なる研究領域の先生方の発表をお聞きし、研究の面白さを感じたことはもちろんのこと、研究の構想やアプローチ、結果の見せ方など、学ぶことが大変多かったです。そして何より、コロナ禍ではできなかった「雑談」を長時間できたことは貴重でした。実現可能性を無視した研究の夢を語り合ったり、研究室運営の苦労話を共感しあったりなど、立場に近い先生たちと過ごした時間は今後の財産になるものでした。

第二に、多くの出会いがあったことです。これまで学術集會に参加したことがない様々な学会から、素晴らしい先生方に出会えました。若手とはいえ、皆それぞれ研究者としての歴史・キャリアパスがあり、それぞれの生き方に学ぶことも多かったです。また、同じ学会に所属していても、これまでお話しする機会がなかった先生とも仲良くなれた事は、大変嬉しいことでした。さらに、偶然にも以前所属していた研究室の後輩と会うことができ、幸運でした。本リトリートを通じて、共同研究へと発展する可能性も出てきて、収穫の多い会となりました。

第三に、北海道函館を満喫できたことです。函館は初めて訪れた場所でしたが、天候にも恵まれて、美しい自然に触れることができ、心が洗われるようでした。会場となった函館大沼プリンスホテルおよび北海道大沼国際セミナーは素晴らしい施設でした。大沼遊覧船やBBQなど野外のアクティビティは大変気持ちがよかったです。ご当地のグルメも用意してくださり、本当に至れり尽くせりでした。これもひとえに、実行委員の先生方のご尽力のおかげです。先生方のホスピタリティに感謝申し上げます。

最後に、本リトリートへの参加を推薦いただきました日本骨代謝学会、および本リトリートを主催していただきました日本医学会連合に感謝申し上げます。本リトリートは、私の研究者人生の貴重な財産になりました。

### 第3回日本医学会連合リトリート印象記

日本感染症学会推薦  
慶應義塾大学医学部感染症学教室  
南宮湖

私は日本感染症学会に推薦していただき第3回日本医学会連合リトリートに参加させていただきました、慶應義塾大学医学部感染症学教室の南宮湖と申します。練りに練られたリトリートを企画運営された先生方、関係者の皆様、そして、多忙な業務の中、快く送り出してくれた職場の同僚の方々にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

この日本医学会連合リトリートは基礎系学会の若手を中心とする先生方の交流を目的とする中で、本年度は幸運にも臨床系の学会として日本感染症学会がゲスト参加の順番であったということで、またとない機会に参加できた私は実にラッキーでありました。

また、大沼国定公園という自然豊かな環境の中で開催された今回のリトリートは天気にも大変恵まれ、忙しい日常を（半分）忘れながら、知的好奇心を刺激される3日間となりました。私自身は普段、臨床医として病院で勤務しておりますが、同年代の多くの他分野の研究者と交流し、それぞれの知見を学ぶことができるこの機会は自分自身にとって至福の時間でした。

このリトリートを通じて多くの研究者と新たに知り合えたことは大変貴重でありましたし、そして、同時期に同じ施設に留学していた研究者や全く別の研究会で知り合った研究者とこの北海道の大地で再会できたこともとても嬉しかったです。

日中の研究発表に加えて、充実した懇親会企画では、研究内容のみならず、日中の発表では聞けなかった詳細な話や、個々の研究のバックグラウンド、研究生活の苦労話などを共有することができました。そして、公式プログラムが終わった後も、参加者同士で深夜に及ぶ自主勉強会・交流会ではさらに深い議論を図ることができました。

改めて、このような貴重な機会を提供していただいた運営委員の皆様を始めとする関係者の皆様に感謝申し上げます。

### 第3回日本医学会連合リトリート印象記

神経病理学会推薦  
新潟大学脳研究所病理学分野  
齋藤理恵

私は神経病理学会の推薦で第3回日本医学会連合リトリートに参加する機会を頂きました。場所は雄大な自然に囲まれた函館大沼プリンスホテル。約20の医学関連学会から数名ずつ研究者が集い、毎朝8時集合、口演・ポスター発表50題という濃厚な3日間を過ごしました。印象に残ったことを中心に述べたいと思います。

私は知り合いがほぼゼロで、緊張の中参加しましたが、口演が始まるとすぐに心配は吹き飛びました。どの発表も素晴らしく、とにかく面白いのです。COVID-19を含む最新・最先端の知見は勿論のこと、研究の着想や進め方にはどの分野にも共通する部分があり大変勉強になりました。話し手も聴き手も発表時間15分はあっという間だったのではないのでしょうか。ポスター発表は、初日に怒涛の1分プレゼン、二日目にポスター前討議（のべ1時間半）でした。セッション終了時には世話人の高岡先生から「議論も尽きないと思いますがそろそろBBQへ移動してください」とお声がかかるほど、こちらも盛り上がりました。私は口演する時間を頂き、研究内容に加え、思い切って研究の問題点（相談）や神経病理領域の紹介（宣伝）も行ったところ、こちらのお話をきっかけに色々な先生からアドバイスや提案を頂き、今後につながる有意義な時間となりました。

特別講演は世界的な免疫学者である竹田潔先生から、腸管粘膜のバリア機構と炎症性腸疾患の病態解明について革新的なお話を伺いました。当時、炎症性腸疾患の治療に絶食・安静しかなかったことが竹田先生の大きな motivation となったことも教えていただき、その情熱と問いを持ち続ける探求心に深く感銘を受けました。

最後に、この素晴らしいリトリートを企画・実行して下さった皆様に心からお礼を申し上げます。会のはじめに、門脇先生から「リトリートには、日常を離れて心身ともにリフレッシュし、新たなスタートを切るという意味がある」といったお話がありました。充実したプログラムや温かいサポートを頂いたおかげで、日々の仕事を離れて自身の研究を見つめ直すとともに、今回出会った分野の異なる研究者との交流を通じて新たな視点を得ることができました。

### 第3回日本医学会連合リトリート印象記

日本薬理学会推薦

熊本大学発生医学研究所 ゲノム神経学分野

矢吹 悌

私は日本薬理学会に推薦していただき、第3回日本医学会連合リトリートに参加させていただきました。まずは素晴らしいリトリートを企画運営された高岡晃教先生をはじめ、関係者の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。参加する前は日本医学会連合リトリートのイメージが全く湧きませんでした。しかしながら、実際に参加してみると、異分野で研究されている若手の先生方の最新の研究知見を得られたり、活発に意見交換を行ったりなど、とても充実した時間を過ごすことができました。

今回参加したリトリートでは3日間、口頭発表、特別講演、ポスター発表とタイトなスケジュールが組まれていました。口頭発表、ポスター発表では各学会代表の若手の先生方が研究紹介を行い、活発なディスカッションが行われました。私はポスター発表を行いました、ポスター会場の活気が凄まじく、負けじと声を張ってプレゼンしたところ、次の日に声がかれました（そのくらい活気があふれていました）。特別講演では、大阪大学免疫学フロンティア研究センターの竹田潔先生の腸内細菌と宿主の相互作用機構についてご講演いただき、研究内容もさることながら研究の進め方やストラテジーなど多くのことを学ぶことができました。

また、如何に自分の研究をわかりやすく伝えるプレゼンテーションが大事か再確認することができました。本会は異分野の先生が多く、普段であれば省略するような説明を含め、自身の研究課題は何なのか、何が問題なのか、何が面白いのかなどわかりやすく伝える必要がありました。特に、口頭発表は12分間で説明する必要があり、先生方によって様々な工夫があり、とても参考になりました。

学術的な内容も素晴らしかったですが、様々な交流イベントがあり、多くの先生と交流を深めることができました。異分野の先生方が集まっているので、普段とは違った角度から研究に関するアドバイスをいただく機会があり、新しい発見が多くありました。また、将来的に共同研究に発展できるような出会いもあり、今後の領域横断的な研究への挑戦へ意欲が高まりました。

繰り返しになりますが、日本医学会連合リトリートに参加し、異分野交流を深めることができ、とても有意義な3日間を過ごすことができました。各学会によって選出方法が異なるかと思いますが、ご自身が所属する学会から参加する機会があれば、尻込みせず是非参加をお勧めします。最後に、ご推薦下さり、このような発表の機会を与えてくださった日本薬理学会理事長・赤羽悟美先生（ご推薦下さった当時）と研究推進委員会の諸先生方に心よりお礼申し上げます。



### 第3回日本医学会連合 Rising Star リトリート印象記

日本免疫学会推薦

東京医科歯科大学難治疾患研究所 生体防御学分野

金山 剛士

この度、日本免疫学会の推薦で第3回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加させて頂きました。まずはこのような機会を与えて下さった学会・医学会連合の先生方、ホスピタリティ溢れる素晴らしいリトリートを企画運営して下さいました高岡先生をはじめ運営委員の先生方やスタッフの皆様、特別講演の演者として重厚な研究内容を分かりやすくご発表下さった竹田先生に心より感謝申し上げます。

今年のリトリートは函館近郊の大沼において2泊3日で開催され、緑薫る森や駒ヶ岳を望む雄大な景色の中、各学会の若手代表による非常にレベルの高い研究成果の発表が行われました。私は今回のリトリートの推薦を受けた際、各学会から推薦された若手の先生方との合宿とのことで、大変光栄に思う一方、「こわい人たちだったらどうしよう、、、」とビビリながら参加致しました。リトリートが始まってしばらくは多少よそよそしい雰囲気がありましたが、2回の懇親会や立食形式の夕食、バーベキュー、大沼公園でのレジャーを通して、これまで交流のなかった先生方との仲を大いに深めることが出来ました。同年代の研究者ということで、研究だけではなく、学生の指導方法や独立に向けた就職活動など幅広い話題で盛り上がりました。異なる分野の先生方と知り合う機会を得たこと、そしてその先生方の素晴らしいアイデアや技術、研究成果に触れて刺激されたことは、今後の自分にとってかけがえない財産になると感じています。おそらく、今回のリトリートに参加された多くの先生方が同じ感想を抱いていらっしゃるのではないのでしょうか。

このリトリートを例えるならば、バランスの取れた食事のようであったと思います。切磋琢磨できる同年代の「友人」たちと知り合い、卓越したシニア研究者の特別講演から将来目指すべき「目標」の高さを感じ、優秀賞やレジャーを通して研究者という職業の「楽しさ」を知る。忙しい毎日の研究活動の中で不足しがちな、研究者のモチベーションを上げるポジティブな外的要因が揃っていたと思います。このような機会を頂けた幸運を無駄にすることなく、さらに精進してゆきたいと心新たにする次第です。叶うならば、今回得られた先生方との繋がりが10年後も20年後も続いて欲しいと思います。

最後になりますが、アカデミアに活気を取り戻す人材育成のロールモデルとして、今後のRising Star リトリートが益々発展、成功していくことを心よりお祈り申し上げます。

### 第3回 日本医学会連合 Rising Star リトリート 印象記

日本医真菌学会推薦  
国立感染症研究所 真菌部  
上野 圭吾

2024年6月19日から3日間開催された第3回 日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加しました。Deciphering Biomedical Systems —生物医学研究最先端—をテーマに、口頭演題25題・ポスター演題25題・特別講演1題がありました。各演題は、日本医学会連合 基礎部会に加盟する15の学会から推薦された演題であり、今回は臨床内科部会に属する日本感染症学会の演題もありました。一見すると各分野の専門性は離れていますが、疾患の機序を分子細胞レベルで理解したいという考えは共通しており、どの演題も身近な話題として拝聴することができました。参加者全員が分野横断的に交流しており、質疑応答の時間も活気に溢れていたことから、全ての演題企画が成功裏に進んだことが伺えました。多くの先生とお話して感じたことは、“色々な意味で”若葉に少し脂がのった熱意ある先生が多いということです。ご自身で主体的に研究を進めている先生が多い様子で、次世代の若きリーダーが集ったようでした。昇進だけを目当てに信念なく研究をするような疑似PIは居なかったと思います。海外の総説をただ紹介するジャーナルクラブのような学会もありますが、このリトリートでは各々の最新データを共有し分野横断的に議論する点で、様子は完全に異なります。演者の先生は異分野の先生にわかりやすく伝えようとする熱意があり、聴衆の先生には少しでも多くの情報を吸収して自分の研究に活かそうとする強い気概が満ちていました。

このような濃密かつ刺激的な会合は、演題企画以外の要素からも醸成されたように思います。例えば、遠足のように全員が同じホテルに宿泊し発表会場も一箇所であった点・会場移動も含めて全員が同じ時間軸で行動した点です。会期中は、カジュアルな服装で気負うことなく過ごすことができ、異分野の先生にも何時でも自由にお声がけできる雰囲気でした。配布された要旨も工夫されており、顔写真・フリガナ付きのお名前・経歴・趣味・連絡先などが記載されていました。このため、お名前を間違えることなく話しかけることができ、スムーズに会話を進めることができました。実は留学先が一緒だった・共通の知り合いが居た等、研究以外の部分で新たな繋がりや共通点が見つかり、それがさらに会場全体の結束力を高めたように見えました。各学会からの参加者は2-5人であったため、会話グループが偏ることなく満遍なく交流ができたことも会場の雰囲気を盛り上げたように思います。どれもオンライン会合や同分野会合では得られない貴重な経験でした。

このリトリートが今後引き続き開催されて、日本医学会連合に加盟する学会とその科学者の交流がさらに発展することを願っています。末筆ではありますが企画委員のご尽力に感謝申し上げます。

### 第3回日本医学会連合リトリート印象記

日本生理学会推薦  
九州大学大学院農学研究院  
池上啓介

私は日本生理学会の推薦で第3回日本医学会連合リトリートに参加させていただきました。素晴らしいリトリートを企画運営された先生方と推薦していただきました日本生理学会に厚く御礼申し上げます。臨床よりな基礎医学研究者の集まりを想像していたのですが、実験動物を使った実験や分子レベルの検証をきちんとハイレベルにされている研究が多く、とても勉強になりエンカレッジされて有益な素晴らしい時間を過ごすことができました。

各学会から若手の研究者が集まり3日間密に過ごした濃厚なものでした。これまでは2日間の開催だったのが3日間になったため、日程の確保が大変だった分、大沼湖と北海道駒ヶ岳という大自然の中に位置するホテルで開催され、遊覧船クルーズやBBQなど素晴らしい気分転換とリフレッシュにもなりました。

初日は移動もあり15時からの開始でしたが、初日から、異分野の刺激的な研究に触れて、いつも使っていない頭を使い大変気持ちの良い疲れ方をしました。研究のアプローチの方法や、解析手法のノウハウなど若手ということもあり、最新の攻め方を紹介されるので、メモ帳はすぐにいっぱいになりました。夜の懇親会では、年齢も近いために質問する障壁を感じず、多くの先生方と知り合うこともできました。懇親会の際に、ポスター発表者はフラッシュトークで研究紹介させていただいたのですが、その後の質問や会話のネタになり非常に助かりました。2日目3日目にオーラルで話される先生の紹介もあればさらによかったと感じました。さらに言えば時間を短縮しても良いので全員オーラルでも良いかと思いました。

私は2日目のセミナーハウスでポスター発表を行い、光栄なことにポスター賞を受賞できました。これだけ異分野の突出した先生方の集まり中で受賞できましたことは、カッコいいガラス盾もいただき、これからの励みになります。場所や時間が限られておりお話を聞ける演題に限りがありましたが、その後のセミナーハウス前の芝生で行われたBBQで、一気に距離が縮まり、研究や大学業務における大変なことや、苦労されたこと、自分たちの強みや共通した知り合いについてなど話は尽きませんでした。2日目は帰ってからホテル地下のラウンジでテーブルを囲んで研究・仕事談議を楽しみました。分野あるあるやトリビア、大学ごとの体制の違いなど勉強させられることばかりでした。

3日目は午前中だけの1セッションでしたが、やはり考え方やアプローチなどが一番参考になりました。3日間を通じて、共同研究まではいかないにしてもお互い使える機器や技術、リソースの融通について連絡を取り合い、結果次第では共同研究に発展するだろう出会いをいくつも得ました。本当の意味での異分野融合を自ら体感できた会であり、今後の自分の研究人生の糧になる会でもありました。若手で盛り上げて科学・医学の発展に貢献してまいりたいと思います。

### 第3回日本医学会連合リトリート印象記

#### 日本感染症学会推薦

埼玉医科大学 医学部免疫学 埼玉医科大学病院 感染症科・感染制御科

戸叶美枝子

2024年6月19日から21日の3日間、日本感染症学会の推薦で第3回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加させて頂きました。本会は日本医学会の基礎部会に加盟している15学会と、臨床内科部会に加盟している学会の中から毎年異なる1学会(本年は日本感染症学会)の計16学会から推薦された若手研究者約50名が交流・情報交換する目的で開催されました。素晴らしい会を企画して頂いた先生方、推薦していただいた日本感染症学会の先生方に御礼申し上げます。

臨床内科部会加盟学会からの参加は少数派でしたが、自分とは異なるバックグラウンドを持つ新進気鋭の優秀な先生方に囲まれて大変楽しい3日間を過ごすことができました。特別講演の竹田潔先生をはじめ、一流研究者による最先端の研究内容を拝聴することができ、大変貴重な経験となりました。発表時の活発なディスカッションにとどまらず、懇親会では夜中まで時間を忘れて意見交換を行うことができました。さらに、大沼国定公園の遊覧船、大沼国際セミナーハウスでのバーベキューなど、研究に関する議論をするだけでなく、大自然の中で学会の枠を超えた若手研究者と交流することができ、最高の「リトリート」でした。

参加するまでどのような会であるのか全く予想できず、また私自身、初期臨床研修を修了してすぐにコロナ渦となってしまうオンラインの学会を中心に経験してきたため、会場に到着するまでは不安と期待が入り交じった複雑な気持ちで大変緊張しておりました。しかし懇親会でたくさんの先生方とお話させていただくことができ、大変刺激的でした。今回交流させていただいた先生方と、共同研究をしたり、また何年後かにどこかでお会いできたりできましたら幸いです。

これから先、研究を続ける中で心が折れそうになることもあると思いますが、そんな時は今回の経験を思い出して頑張ろうと思いました。毎年参加できないことが残念ですが、今後も日本医学会連合 Rising Star リトリートがますます盛況となることをお祈り申し上げます。

## 5. アンケートとその結果

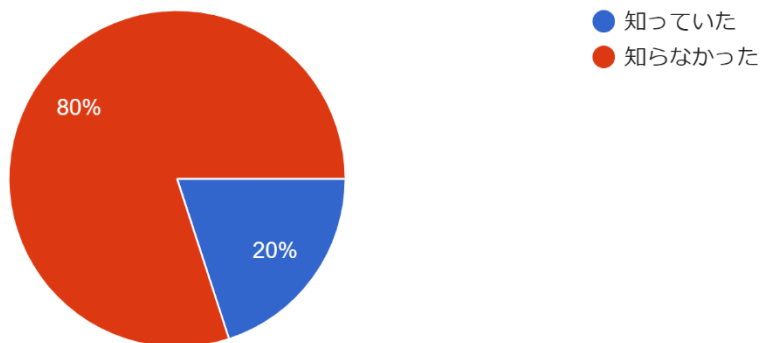
- ・ 今回は諸事情で開催期間が2泊3日となるも、開催地、開催時期を含め、これらに対する評価は概ね良好であった。
- ・ 口頭発表のセッション分け、口頭・ポスター発表の演題数のバランス、口頭・ポスター発表の配分時間に対する評価も概ね良好であったが、一部にポスターの時間が短かったという回答が参加者の約三分の一にみとめられた。
- ・ 口頭発表を多くしてほしいという回答が回答者の約20%に、また、ポスター発表の時間について短すぎるという回答が回答者の約三分の一にみとめられた。
- ・ 食事の形式、懇親会内容に関する評価も良好であった。
- ・ 異分野交流についてもほとんどの参加者が好印象を持った。回答者の80%以上が2名以上の他学会からの参加者と共同研究をしてみたいという感想を持っていた。異分野交流に効果的な会であるとの意見が多かった。
- ・ 類似の異分野交流リトリートに参加した経験のない参加者が回答者の四分の三程度近くいた。本リトリートは異分野交流に有効な手段であることが再確認された。
- ・ 本リトリートの認知度が参加者の20%程度であった。

### 今回の参加者アンケートに基付いた次回への考慮すべき specific points :

- ・ 時間的な制約があるも、ポスター時間の延長を考えても良いと思いました。例えば今回偶数30分、奇数30分、全体で30分と計90分であったが、これらの時間を延ばすということよりも、再度30分のポスター時間を設けるなど、次回少し工夫されると良いと思いました。
- ・ もう少し早めの時間帯から始めて、オーラルセッションについては、もう1セッションほど増やす可能性についても議論されても良いと思いました。
- ・ 本リトリートの認知度をさらに挙げ、こういった異学会間交流の重要性の認識を広めるためにも、参加された基礎部会所属学会のニューズレターなどへの参加レポート掲載を御願ひするなどの働き掛けを行っても良いと思いました。
- ・ より high-quality なリトリートを目指すために、一度”rising star”の選定基準について少し再検討するのがよいという意見もあった。

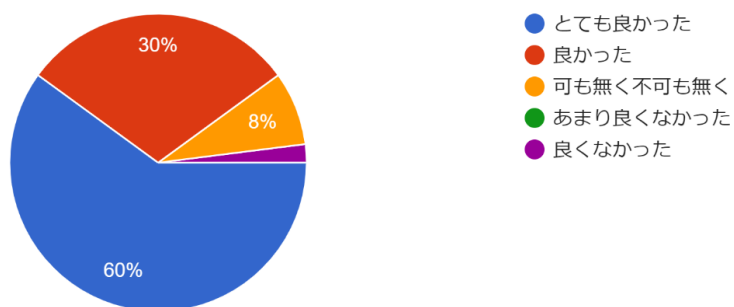
Q1: 今回のリトリートに参加する以前に、リトリートについてご存知でしたか？

50件の回答



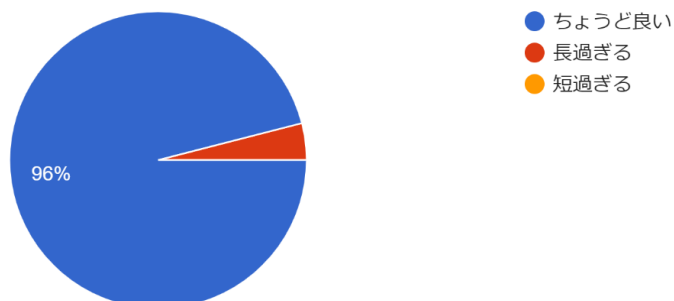
Q2: 6月下旬の開催について

50件の回答



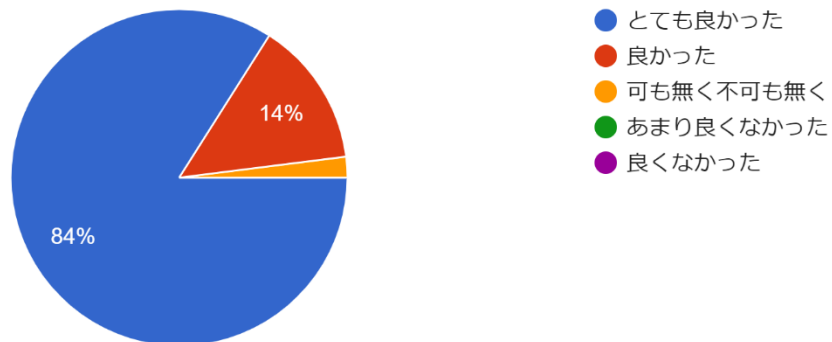
Q3: 開催期間（2泊3日）について

50件の回答



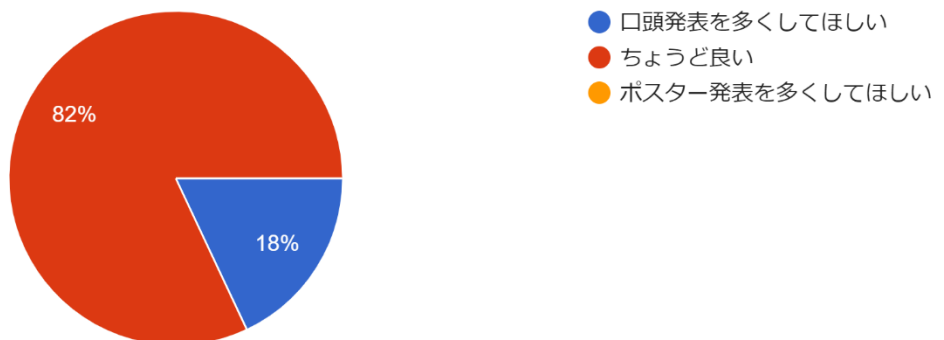
#### Q4: 開催場所（函館）について

50 件の回答



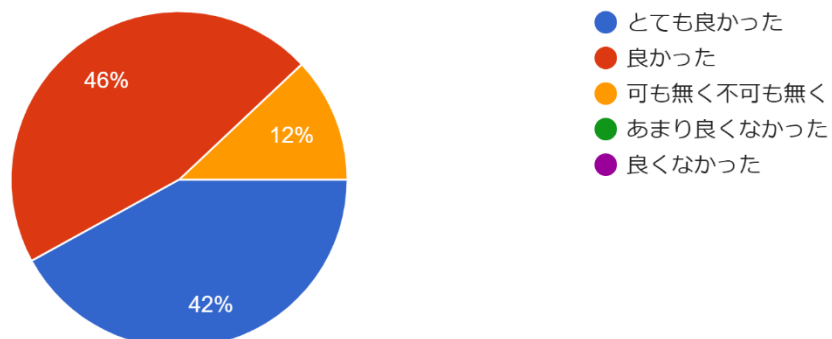
#### Q5: 口頭発表とポスター発表の演題数のバランスについて

50 件の回答



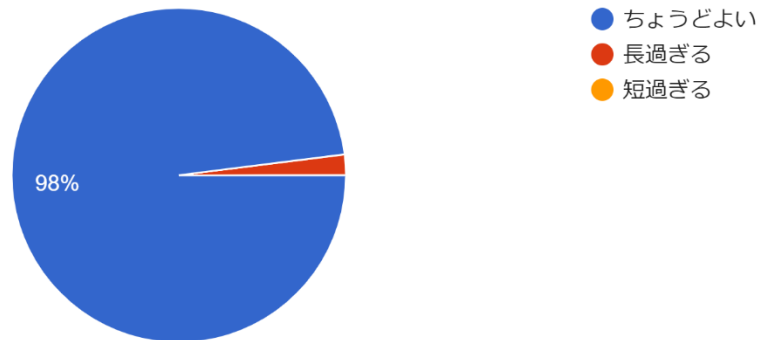
#### Q6: 口頭発表のセッション分けについて

50 件の回答



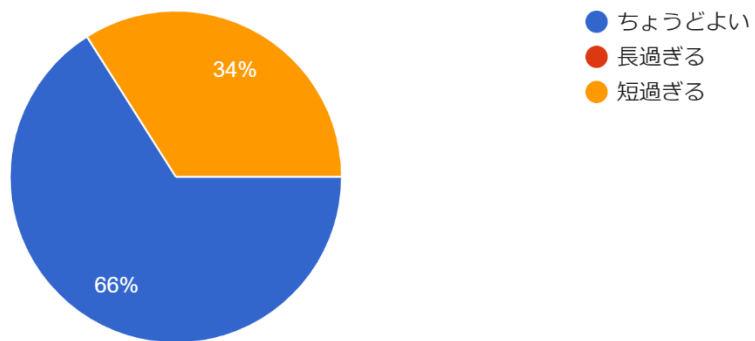
Q7: 口頭発表の時間について

50 件の回答



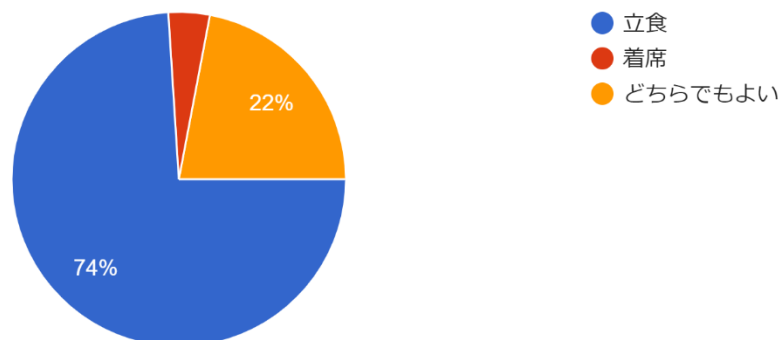
Q8: ポスター発表の時間について

50 件の回答



Q9: 食事の形式は立食でしたが、立食・着席のどちらがリトリートに適すると思いますか？

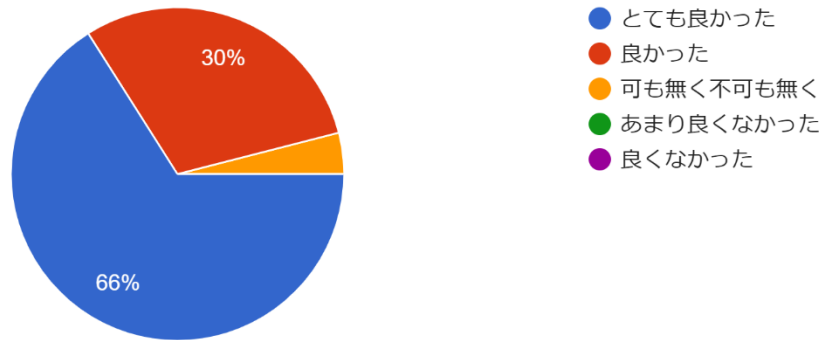
50 件の回答





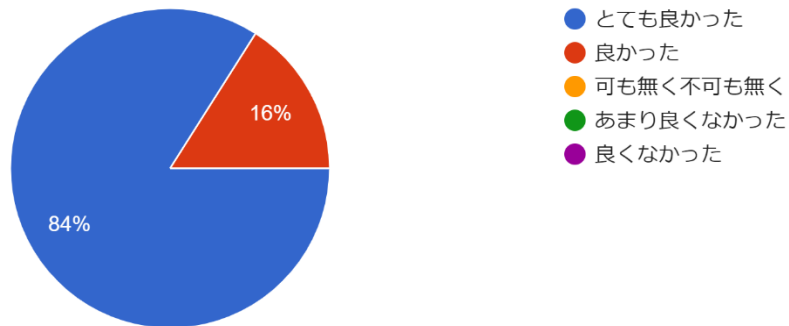
Q10: 懇親会の内容や時間、お酒の量などはいかがでしたか？

50 件の回答



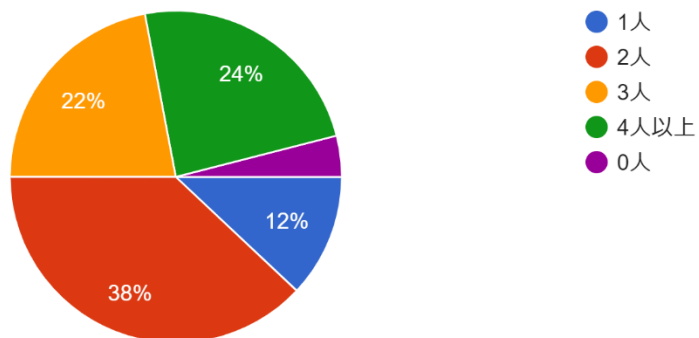
Q11: 異分野交流について

50 件の回答



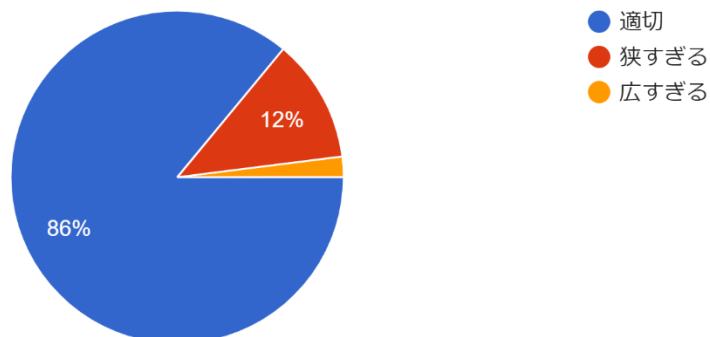
Q12: 所属学会以外の参加者で共同研究をしてみたいと思った参加者の人数は？

50 件の回答



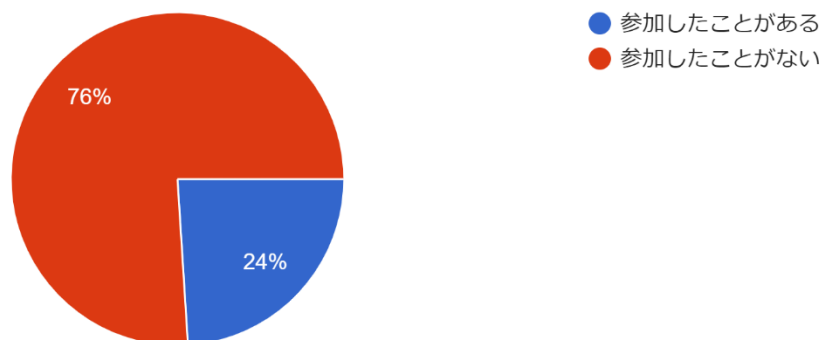
Q13: 今回のリトリートは医学会連合の基礎系の学会と臨床系1学会のみの参加でしたが、異分野交流を行う範囲としてこれが適切でしょうか？

50件の回答



Q14: 類似の異分野交流リトリートについて

50件の回答



Q15: 特別講演の招待演者のご希望をご回答ください

- ・ 中村祐輔先生
- ・ 新谷 歩先生
- ・ 山崎晶先生
- ・ 一條秀憲先生
- ・ 伊藤 貴浩先生（京都大学）
- ・ 西川博嘉先生（名古屋大学）
- ・ 上野英樹先生
- ・ 山中伸弥先生（京都大学）
- ・ 運営される先生が公演を聴きたい先生が良いと思います。
- ・ 特別講演の先生に、若い時からの失敗談や苦勞を乗り越えたご経験を含めてご講演頂けるとありがたいです。

Q16: 特別講演以外にこのリトリートで実施してほしい企画等があればご記入ください

- ・ Meet the expert のように、エキスパートのベテランの先生との交流があれば嬉しいと思います
- ・ 朝のマラソン大会
- ・ 独立についてのアドバイスがもらえる機会があれば嬉しいです。
- ・ 独立ポジション獲得の支援のような企画があると嬉しいです
- ・ 時間が限られているので難しいですが、出来れば全員口頭発表をして頂けると良いと思います。参加者からもご意見を多々頂きました。
- ・ レクリエーションも継続していただきたいです
- ・ リトリートに参加した人の再会の場

## 6. 総括

今回、お陰様で日本医学会連合の高橋先生および本間先生のご指導の下、初めての北海道での本リトリート開催を函館大沼という地でベストシーズンに実現できました。参加者の声やアンケート回答からうかがえますように、まさに門協会長が開会の御挨拶の時にコメントいただきました通りに自然一杯のリラックスした環境の中で多くの異分野の若手研究者が大いに交流できる機会を提供できたのではないかと思います。実際に、参加者から「異分野交流の観点から非常に有意義なリトリートであった。」「発表構成、懇親会、レクリエーションすべてにおいて、大変充実したもので、感銘をうけました。」「このようなスタイルの研究会が増えれば、日本の研究がもっと活発になると思います。」などのコメントがありました。

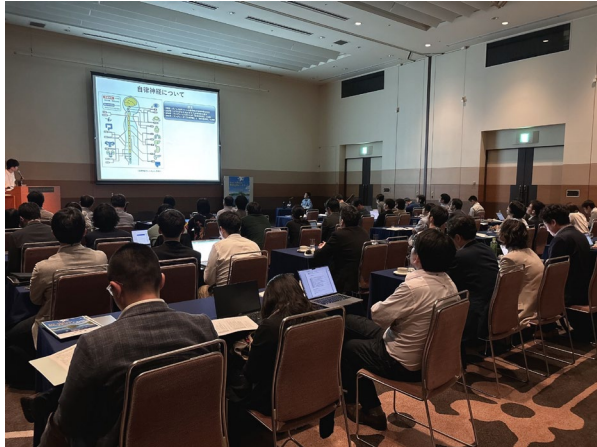
一方で、これまで基本的には現在基礎部会所属の15の学会に臨床部会から1つの学会のみオブザーバー参加を御願ひしてきましたが、「臨床部会をもう少し増やしても良いような印象を受けました。」という意見もあり、例えば、臨床部会の3つの学会に増やし、一方で各1名ずつにして、新進気鋭の若手研究者を加えさらに異分野性を高めてもよいかと思いました。さらには、より異分野間の交流という観点からは、医学会の枠を超えたより大きな枠で、毎年1つの医学会以外から招待学会を選んで分かり易くレクチャーしていただくことや、あるいは日本のノーベル賞受賞者とのセッションを取り入れ、日本や世界のサイエンスや研究について討論するなど企画も rising star の若手研究者にとって、より stimulating な絶好の機会になるのではと、本リトリートのさらなる可能性・重要性を感じました。

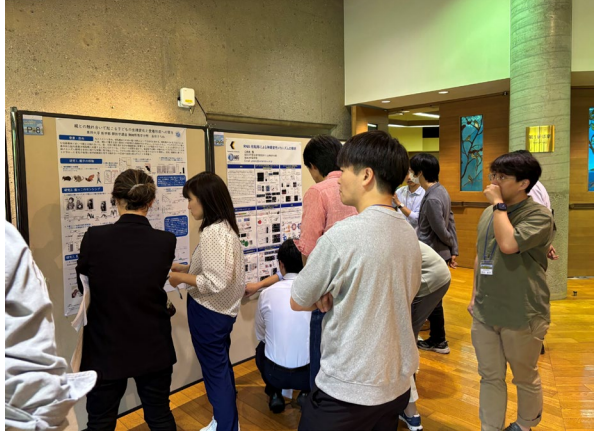
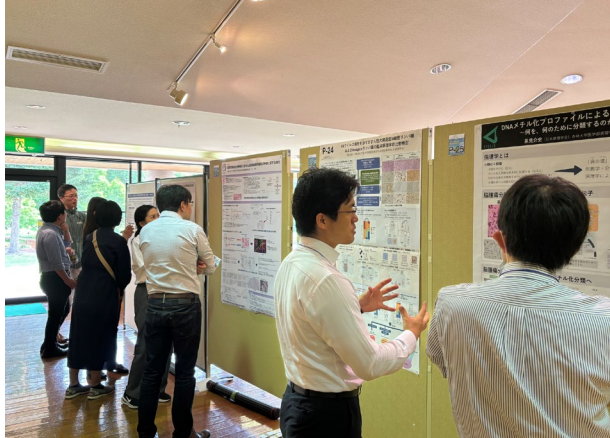
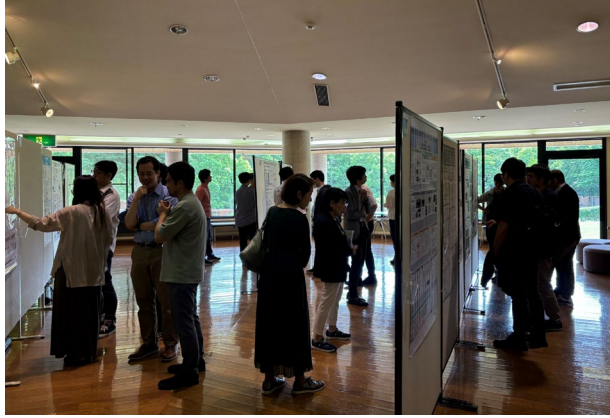
本企画は若手研究者にとって、こういった brainstorming 的な機会を提供し、いろんな意味で新しい発想や創造性を高めるための大きな一助となるとても重要な企画であると改めて認識いたしました。さらに重要なことは、こういった同年代の研究者同士が濃密な discussion の時間をもつことは、研究者個人間はもとより、将来の学会間をつなぐ研究者ネットワークを育むことにもつながると思いました。

最後になりましたが、このような機会をいただきました日本医学会連合の門協会長、高橋副会長、本間委員長、事務局の皆様には、深く心より感謝申し上げますとともに、今回サポートいただいたシニアおよび若手の企画委員の諸先生方には心より御礼申し上げます。

## 7. 会場風景（写真集）











## 8. 参考資料

### 8-1. 各学会への参加者推薦依頼文

2023年12月19日

一般社団法人 日本医学会連合 基礎部会  
加盟学会 代表理事・理事長・会長 殿

一般社団法人 日本医学会連合  
会長 門脇 孝  
副会長 高橋 雅英  
教育・研究推進委員会 委員長 本間 さと

#### 第3回日本医学会連合 Rising Star リトリート開催のご案内

日頃より日本医学会連合の活動にご協力いただき感謝申し上げます。

日本医学会連合では、基礎部会加盟学会を支える若手研究者の育成とキャリア形成をサポートするため、「日本医学会連合 Rising Star リトリート」を実施しております。2019年3月3-4日に第1回リトリート、2023年3月5-6日に第2回リトリートを開催し、基礎部会関連学会で活躍している若手会員50名を招待し、各自の研究発表を通じ、研究者間の交流・連携・横断的研究活動を促進することができました。

これに続き2024年6月19-21日に第3回リトリートを開催することにいたしましたので、下記要領をご覧ください。2024年1月31日（水）までにリトリートに参加いただける新進気鋭の若手研究者5名を貴学会よりご推薦くださるようお願い申し上げます。

#### 記

#### 日本医学会連合 Rising Star リトリート

1. 日時：2024年6月19日（水）（15時開始予定）～21日（金）（12時頃解散予定）
2. 場所：函館（大沼プリンスホテル、大沼国際セミナーハウス）
3. リトリートテーマ：「Deciphering Biomedical Systems-生物医学研究最先端-」
4. 当番学会：日本免疫学会、日本生化学会、日本生理学会、日本ウイルス学会、日本病理学会、日本感染症学会（オブザーバー）
5. 参加者：日本医学会連合基礎部会関連学会所属の若手研究者約50名（教授から大学院生まで、身分・役職は問いませんが、年齢は概ね45歳まで）。その分野の新進気鋭の研究者であること。
6. 研究発表：オーラル発表およびポスター発表（参加者の発表テーマ等を元にどちらかの発表形式を依頼する予定）
7. 特別講演：竹田 潔 先生（大阪大学免疫学フロンティアセンター）

貴学会への依頼事項

1. 2024年1月31日(水)までに本リトリートの趣旨に沿った研究発表が可能な若手候補者5名のお名前、所属、役職、連絡先(メールアドレス、電話番号)、主たる研究テーマを日本医学会連合事務局までご連絡ください。
2. 候補者の方が上記日程で全日現地参加可能であることを事前にご確認ください。
3. 旅費と宿泊費(大沼プリンスホテル・個室)は日本医学会連合で負担いたします。
4. 候補者選出にあたっては、ジェンダーおよび地域バランス等、参加者の多様性にもご配慮ください。
5. ご参考までに、第2回日本医学会連合リトリート実施報告書、および日本医学会連合加盟学会リストを添付いたします。

以上

<本件に関する問い合わせ先>  
一般社団法人日本医学会連合事務局  
Email: rising-star2024@jmsf.or.jp  
TEL: 03-6240-0405

\*\*\*\*\*

返信用書式

\*\*\*\*\*

候補者 No.1

氏名:

所属(研究室名まで):

役職:

メールアドレス:

電話番号:

主たる研究テーマ(2行程度):

\*\*\*\*\*

候補者 No.2

氏名:

所属(研究室名まで):

役職:

メールアドレス:

電話番号:

主たる研究テーマ(2行程度):

\*\*\*\*\*

## 8-2. 参加者への案内（電子メール）

件名：第3回日本医学会連合 Rising Star リトリート ご参加される皆さまへ

<以下本文>

第3回日本医学会連合 Rising Star リトリートにご参加の皆様：

前略 第3回日本医学会連合 Rising Star リトリートにご協力いただきありがとうございます。

会期が近づいてまいりましたので、発表内容と当日の服装についてご案内いたします。

本企画には、若手研究者が所属学会を超えて交流する機会を提供し、互いに刺激し合うことにより基礎医学全般の活性化に繋げていきたいという願いがあります。

また、参加者のネットワークが広がることにより、所属学会以外の研究者との共同研究なども積極的に推進してもらいたいと考えています。

上記の目的のため、専門外の人が見ても研究の意義や結果が分かるように発表内容を準備いたしますようお願いいたします。

現在の研究の困難さや今後の課題なども場合によっては加えていただければ、全く違う分野の研究者から良いアドバイスが得られるかも知れません。

参加者のほとんどは専門外の研究者ですので、難解な専門用語や略語はわかりやすく説明するか、可能であれば避けて下さい。

また、オーラル、ポスター共に発表言語は日本語でお願いします。

専門外の人に研究の意義や結果を説明するのは意外と骨が折れるかもしれませんが、自身の研究を原点から見直すチャンスになるのではないかと思います。

また、プログラムは下記よりダウンロードしていただけますようお願いいたします。

<https://app.box.com/s/h2xipg09iwpl6r0g274t4fun10u1p0xr>

当日の服装については、スマートカジュアルまたはカジュアルでお越しく下さい。ネクタイは不要です。2日目夜には、戸外でのバーベキューを予定しております。夜は冷えることが多いですので、羽織るものをお持ちください。

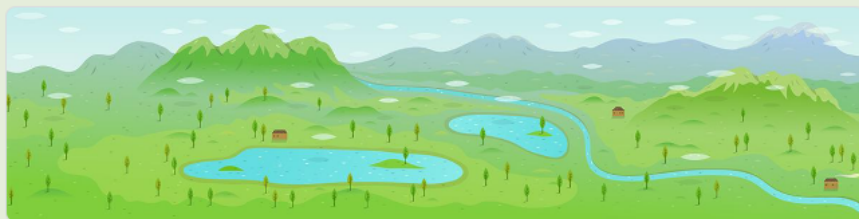
参加者は若手ばかりですので、肩ひじ張らず最新の研究成果を楽しく議論できればと思っております。

それでは会場にてお会いできることを楽しみにしています。

草々

第3回日本医学会連合 Rising Star リトリート  
企画委員一同

### 8-3. アンケートフォーム



## 第3回日本医学会連合Rising Starリトリート：アンケート

この度は第3回日本医学会連合Rising Starリトリートにご参加頂きありがとうございました。次回以降のリトリート企画の参考とするために皆様のご意見を頂きたいと思っております。つきましては以下のアンケートにお答え頂き、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。[詳細](#)

\*必須の質問です

氏名

回答を入力

Q1: 今回のリトリートに参加する以前に、リトリートについてご存知でしたか？ \*

- 知っていた
- 知らなかった

Q2: 6月下旬の開催について \*

- とても良かった
- 良かった
- 可もなく不可もなく
- あまり良くなかった
- 良くなかった

ご意見があればお聞かせください。

回答を入力

Q3: 開催期間（2泊3日）について \*

- ちょうど良い
- 長過ぎる
- 短過ぎる

Q4: 開催場所（函館）について \*

- とても良かった
- 良かった
- 可もなく不可もなく
- あまり良くなかった
- 良くなかった

ご意見があればお聞かせください。

回答を入力

Q5: 口頭発表とポスター発表の演題数のバランスについて \*

- 口頭発表を多くしてほしい
- ちょうど良い
- ポスター発表を多くしてほしい

Q6: 口頭発表のセッション分けについて \*

- とても良かった
- 良かった
- 可もなく不可もなく
- あまり良くなかった
- 良くなかった

Q7: 口頭発表の時間について \*

- ちょうどよい
- 長過ぎる
- 短過ぎる

Q8: ポスター発表の時間について \*

- ちょうどよい
- 長過ぎる
- 短過ぎる

Q9: 食事の形式は立食でしたが、立食・着席のどちらがリトリートに適すると  
思いますか? \*

- 立食
- 着席
- どちらでもよい

ご意見があればお聞かせください。

回答を入力

Q10: 懇親会の内容や時間、お酒の量などはいかがでしたか? \*

- とても良かった
- 良かった
- 可もなく不可もなく
- あまり良くなかった
- 良くなかった

ご意見があればお聞かせください。

回答を入力

Q11: 異分野交流について \*

- とても良かった
- 良かった
- 可もなく不可もなく
- あまり良くなかった
- 良くなかった

Q12: 所属学会以外の参加者で共同研究をしてみたいと思った参加者の人数は? \*

- 1人
- 2人
- 3人
- 4人以上
- 0人

Q13: 今回のリトリートは医学会連合の基礎系の学会と臨床系1学会のみの参加でしたが、異分野交流を行う範囲としてこれが適切でしょうか？

- 適切
- 狭すぎる
- 広すぎる

Q14: 類似の異分野交流リトリートについて \*

- 参加したことがある
- 参加したことがない

Q15: 特別講演の招待演者のご希望をご回答ください

回答を入力 \_\_\_\_\_

Q16: 特別講演以外にこのリトリートで実施してほしい企画等があればご記入ください

回答を入力 \_\_\_\_\_

Q17: ご感想を自由にご記入ください

回答を入力 \_\_\_\_\_

送信


フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは jmsf.or.jp 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム

## 8-4. 投票フォーム



15:10-16:50 オーラル I **Sirius** 『細胞、組織の生理』  
第3回日本医学会連合Rising Starリトリート 優秀賞投票 6月19日(水)  
回答期限：6月19日(水)17:00

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。 [詳細](#)

\* 必須の質問です

氏名 \*

回答を入力

最も良かった発表者1名を選んでください。 \*

- 01-1 蛍光タンパク質センサーを用いた消化管内分泌細胞の生理機能解析 (原田一貴)
- 01-2 ペルオキシソームが司る多様な生命基盤 (杉浦歩)
- 01-3 オルガネラ膜タンパク質の局在化における配送校正機構の解析 (松本俊介)
- 01-4 膜輸送体による栄養関連物質の体内動態制御機構 (豊田優)
- 01-5 骨を知り・骨を創る (北條宏徳)

**送信** フォームをクリア

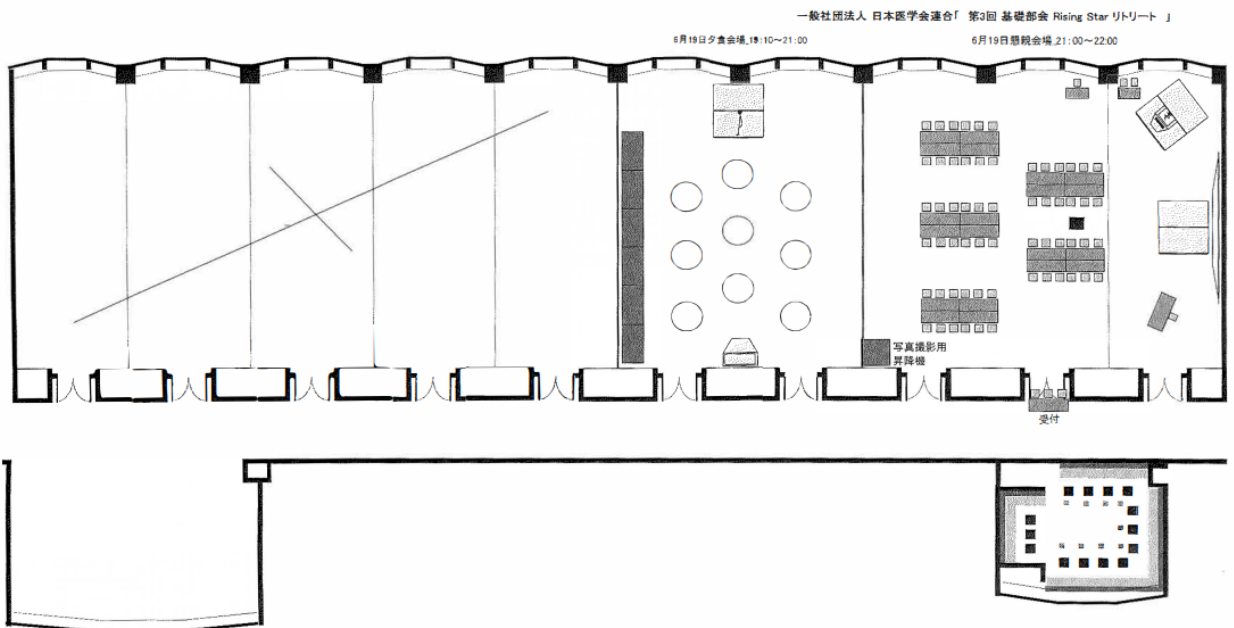
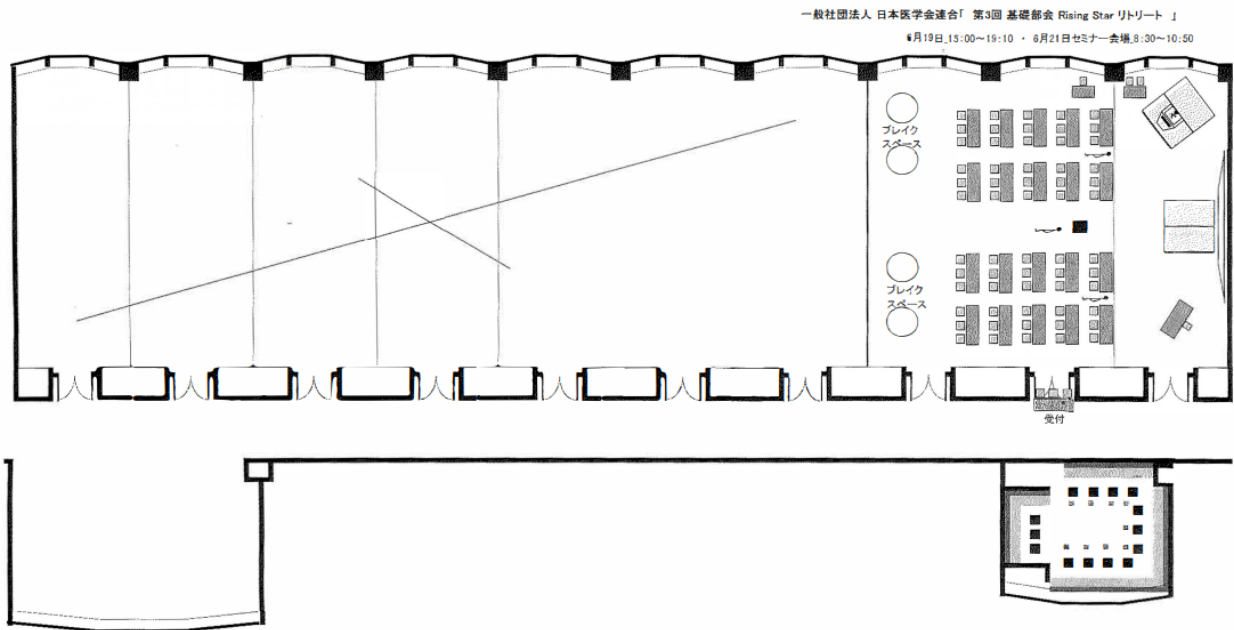
Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームはjmsf.or.jp 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム



## 8-5. 会場フロアプラン



## 9. リトリートプログラム (抜粋)



**第3回 日本医学会連合  
Rising Starリトリート**

Deciphering Biomedical Systems  
-生物医学研究最先端-

会期 2024年6月19日 (水) ~21日 (金)

会場 函館大沼プリンスホテル  
北海道亀田郡七飯町大沼温泉  
北海道大沼国際セミナーハウス  
北海道亀田郡七飯町大沼1-27-1

**抄 録 集**

主催 一般社団法人日本医学会連合

## プログラム 6月19日(水)

会場： 国営大沼プリンスホテル3F プリンズホール

14:50 までに会場へお越しください。

15:00-15:10 / 開会式 / 司会：高岡 昇教  
 門脇 孝 (日本医学会連合 会長)  
 本間 さと (日本医学会連合 教育・研究推進委員会 委員長)  
 はじめに  
 オリエンテーション  
 高岡 昇教 (北海道大学)

15:10-16:50 / オーラル I **Stiruv** : 『細胞、組織の生理』 座長：西成 忍 (千葉大学)

01-1 15:10	東光タンパク質センサーを用いた消化管内分泌細胞の生理機能解析 原田 一貴 (東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻生命環境科学系/日本生理学会)	11
01-2 15:30	ペルオキシソームが司る多様な生命基盤 彩浦 歩 (順天堂大学大学院医学研究科/日本生化学会)	12
01-3 15:50	オルガネラ膜タンパク質の局在化における配位校正機構の解析 松本 俊介 (九州大学大学院農学研究科/日本生化学会)	13
01-4 16:10	膜輸送体による栄養阻害物質の体内動態抑制機構 豊田 優 (防衛医科大学校 医学教育部医学科 分子生体制御学講座/日本栄養・食糧学会)	14
01-5 16:30	骨を知り・骨を創る 北條 宏徳 (東京大学大学院医学系研究科/日本骨代謝学会)	15

16:50-17:00 / 優秀賞投票 / コーヒーブレイク

17:00-18:40 / オーラル II **Canopus** : 『神経科学』 座長：須田 悠紀 (山梨大学)

02-1 17:00	情動制御における2つのセロトニン神経後の対照的な機能 永安 樹 (京都大学大学院薬学研究所 生体機能解析学分野/日本薬理学会)	16
02-2 17:20	未知なものに対する防衛行動を調節する神経メカニズム 堀井 蓮子 (奈良県立医科大学医学部・解剖学第一講座/日本解剖学会)	17
02-3 17:40	血薬値の変化を感知するグルコースセンシング神経に関する研究 戸田 知得 (熊本大学 大学院生命科学研究部 中枢性代謝制御学講座/日本生理学会)	18
02-4 18:00	自律神経調節の仕組みと病態解析への応用 谷田 守 (奈良医科大学 医学部 生理学II講座/日本生理学会)	19
02-5 18:20	3D デジタル病理学構築と加齢性動脈硬化/小血管病の理解 菊藤 理恵 (新潟大学脳研究所 病理学分野/日本神経病理学会)	20

18:40-19:10 / 優秀賞投票 / ブレイク

19:10-20:30 / 夕食：3F プリンズホール  
 20:30-21:00 / ガスター Flash Talk 司会：里見 介史 (杏林大学)  
 21:00-22:00 / 懇親会：3F プリンズホール

解散

## プログラム 6月20日(木)

会場： 大沼国際セミナーハウス 第1研修室

8:00 / 貸切バス出発 (大沼国際セミナーハウスへ移動：7:55 までに集合)

8:10 / 大沼国際セミナーハウスに到着 ポスター展示・閲覧

<9 時までポスター-viewing>

9:00-9:50 / 特別講演 / 座長：高岡 昇教 (北海道大学)

PL 9:00	腸内細菌と宿主の相互作用機構 竹田 深 (大阪大学医学部フロンティア研究センター 拠点長/日本免疫学会)	10
------------	---	----

10:00-11:40 / オーラル III **Alpha Centauri** : 『病原体に対する宿主応答』

座長：名黒 功 (順天堂大学・東京大学)

03-1 10:00	免疫グロブリンA を介した宿主と腸内細菌叢の相互作用の解明 河本 新平 (大阪大学 微生物学研究所 遺伝子生物学分野/日本免疫学会)	21
03-2 10:20	新興・再興ウイルス感染症に対するワクチンの効果を増強する方法の開発 海木 隆太 (国立感染症研究所/日本免疫学会)	22
03-3 10:40	新型コロナウイルスに対する中和抗体の研究 森山 彩野 (国立感染症研究所/日本免疫学会)	23
03-4 11:00	T-バリンおよびアデニン受容体を介したシグナル伝達は COVID-19 のウイルスエントリ 特異的な IL-8 分泌を調節する 戸田美枝子 (埼玉医科大学 医学部免疫学、大学病院 感染症科、徳島創創科/日本免疫学会)	24
03-5 11:20	呼吸器感染症の疾患感受性遺伝子の探索と機能解析 前宮 湖 (慶應義塾大学医学部感染症学教室/日本免疫学会)	25

11:50 / 貸切バス出発 (大沼公園へ移動) / 優秀賞投票

12:20 / 遊覧船乗船・昼食・集合写真

13:40 / 貸切バス出発 (大沼国際セミナーハウスへ)

13:50 / 大沼国際セミナーハウスに到着

14:00-15:40 / オーラル IV **Areturus** : 『病原体解析』 座長：田淵修平 (大阪大学)

04-1 14:00	高速リバーシジェネティクスを駆使した SARS-CoV-2 研究の推進 福原 亮介 (北海道大学大学院医学研究科 病原微生物学教室/日本ウイルス学会)	26
04-2 14:20	病原細菌の腸管定着機構の構造生物学研究 中村 昇太 (大阪大学 微生物学研究所 感染症メタゲノム研究分野/日本細菌学会)	27
04-3 14:40	表在性・深在性の両面から考えるカンジダ属感染症 阿部 雅広 (国立感染症研究所 真菌部/日本免疫学会)	28
04-4 15:00	遺伝子改良レボーター-熱帯結マラリア原虫の創出および基礎・創薬研究への応用 宮崎 真也 (熊本大学 熱帯医学研究所 原虫学分野/日本寄生虫学会)	29
04-5 15:20	マダコ小分子 RNA 経路によるウイルス制御機構 桂森 仁美 (奈良先端科学技術大学院大学/日本ウイルス学会)	30

15:40-16:00 / 優秀賞投票 / ブレイク

16:00-17:30 / ポスターディスカッション 司会：里見介史 (杏林大学)  
(券数番号：16:00-16:30、備番号：16:30-17:00、自由討論：17:00-17:30)

17:30 / 優秀賞投票 / 夕食：大沼国際セミナーハウス中庭にて BBQ

20:00 / 貸切バス出発 (函館大沼プリンスホテルへ)

20:30-22:00 / 懇親会：BIF すずらん

解散

## プログラム 6月21日 (金)

会場：函館大沼プリンスホテル3F プリンズホール

セッション開始前にチェックアウトを行い、荷物は会場へご持参ください。

8:30-10:10 / オーラル V **Yego** : 『がん関連』 / 座長：里見 介史 (杏林大学)

05-1 8:30	生体組織・細胞の蛍光現象を駆使した病理組織解析 松井 崇浩 (大阪大学/日本病理学会)	31
05-2 8:50	長編シーケンス技術を用いた疾患研究 藤本 明洋 (東京大学医学部系研究科人獣共通感染症学教室/日本人獣医学学会)	32
05-3 9:10	パターン認識受容体を標的とした腫瘍免疫治療法の開発研究 大東 敬幸 (旭川医科大学理学部免疫学講座/日本病理学会)	33
05-4 9:30	オミクス解析を用いた膵臓がんの代謝・分子サブタイプの誘導メカニズムの解明 大原 悠紀 (名古屋大学大学院医学部研究科生体応答学/米国立衛生研究所/日本病理学会)	34
05-5 9:50	肝がん微環境の制御を介したがん予防・治療法の開発 山岸 良多 (大阪公立大学大学院医学部研究科腫瘍生物学/日本癌学会)	35

10:10-10:30 / 優秀賞投票 / コーヒーブレイク / アンケート記入

10:30-10:50 / 表彰式および閉会式 司会：高岡 景教 (北海道大学)  
閉会挨拶 担当副会長：高橋雅英

11:20 / 函館空港行き貸切バス出発 (12:10 函館空港到着予定)

12:00 / 新函館北斗駅行直通バス出発 (12:20 新函館北斗駅到着予定)

(揃い次第出発しますので、早めに集合してください)

**参加者アンケート**：リンクまたはQRコードからご回答ください。



## ポスターセッション

会場：大沼国際セミナーハウス ギャラリー

司会：里見介史 (杏林大学)

P-1	細胞が透過圧を感知する分子メカニズムとその生理的意義 名 脇 功 (熊本大学大学院国際総合科学研究科 細胞機能学専攻/日本生化学会)	36
P-2	Absolute calibration of ribosome profiling assesses the dynamics of ribosomal transcription 岩崎信太郎 (理化学研究所附属研究本部、東京大学大学院医歯薬学総合研究科ゲノム情報学専攻/日本生化学会)	37
P-3	区画化した微小培養モデルの大量・並列解析 服部 一輝 (東京大学先端科学技術研究センター/日本生化学会)	38
P-4	破骨細胞の起源多様性から紐解く骨髄腔産生のダイナミクス 前原 康人 (大阪大学大学院理学研究科生命細胞研究科 免疫細胞生物学/日本骨代謝学会)	39
P-5	CREB coactivator CRT1 によるエネルギー代謝調節機構 松村 成暢 (大阪公立大学生活科学研究科基盤医学分野/日本栄養・食糧学会)	40
P-6	体内時計による一次細胞の制御機構およびその生理学意義 中里 亮太 (広島大学大学院系科学研究科生理学及び発生生物学研究室/日本細胞学会)	41
P-7	腸肝の昼夜リズム分子制御機構-線内層の時間治療法開発に向けて- 池上 悠介 (九州大学大学院農学研究院/日本生理学会)	42
P-8	親との触れ合いで起こる子どもの生理変化と愛着形成への関与 吉田さちね (東京大学医学部/日本生化学会)	43
P-9	RNA 相転移による神経変性メカニズムの解明 矢吹 暁 (熊本大学発がん医学研究所/日本薬理学会)	44
P-10	柔軟な判断の障害に関する神経メカニズム 須田 悠紀 (山梨大学大学院総合医科学研究科基礎医学系生理学講座統合生理学/日本生理学会)	45
P-11	胎帯性記憶 T 細胞に着目した肺真菌症ワクチン 上野 圭吾 (国立感染症研究所 真菌部/日本免疫学会)	46
P-12	真菌に対する感染応答機構の解明 西城 忍 (千葉大学東洋医学研究センター/日本免疫学会)	47
P-13	新たな自然免疫型 T リンパ球 [MP 細胞] の免疫学的意義 河部 剛史 (東北大学大学院医学部系研究科・免疫学分野/日本免疫学会)	48
P-14	末梢組織からの損傷排除を介した新たな全身炎症抑制機構の解明 金山 剛士 (東京医科大学 腎臓病研究科/日本免疫学会)	49
P-15	NF-κB 経路の異常による先天性免疫調節障害の解明 森谷 邦彦 (防衛医科大学 小児科/日本免疫学会)	50
P-16	ウイルス感染細胞におけるノンコーディング RNA の機能 高橋 朋子 (埼玉大学大学院理工学研究科生命科学部門分子生物学専攻/日本ウイルス学会)	51
P-17	RNA ウイルスの病原性発現機構と宿主抗ウイルス応答の解明 山根 大智 (神戸大学医学部附属5年/東京大学医学部研究科応用分子生物学分野/日本免疫学会)	52
P-18	LCMV の翻訳制御機構 岩崎 正治 (大阪大学微生物学研究所/日本ウイルス学会)	53
P-19	新膜・再膜感染のトランスレクションリサーチ 城戸 康生 (大阪公立大学大学院医学研究科ウイルス学/第五学年/日本寄生虫学会)	54

P-20	腸肝癌から「スタンダード」を築こう—エンテロウイルス D68 の流行を鑑み、新規 PCR アッセイの開発へ— 幾瀬 樹 (国立成育医療研究センター—感染内科/日本感染症学会)	55
P-21	SFTS ウイルス生活環における蛋白質質管理機構の意義 田端 修平 (大阪大学感染症総合研究拠点ウイルス制御学/日本ウイルス学会)	56
P-22	非小細胞肺癌におけるミトコンドリア電子伝達系阻害薬の有用性 柴 綾 (徳島大学 医学部系 診断病理学/日本癌学会)	57
P-23	間質性肺炎合併肺癌における癌関連線維芽細胞の特徴に関する検討 井上 千裕 (東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野/日本病理学会)	58
P-24	EB ウイルス陽性を示すびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫および Hodgkin リンパ腫の臨床病理学的比較検討 長瀬 駿介 (徳島大学医学部基礎診断学系病理診断学/日本病理学会)	59
P-25	DNA メチル化プロファイルによる脳腫瘍分類～何を、何のために分類するのか?～ 里見 介史 (徳島大学医学部病理学教室/日本病理学会)	60



10. リトリート優秀賞 表彰状



# 表彰状

第3回日本医学会連合 Rising Star リトリート優秀賞

<演題タイトル>

<所属>

<氏名> 殿

貴殿の発表は第3回日本医学会連合Rising Star  
リトリートにおいて優秀賞に選ばれました  
その栄誉をたたえ今後の研究のさらなる発展を  
祈念してここに表彰します

2024年6月21日

一般社団法人日本医学会連合  
会長 門脇 孝